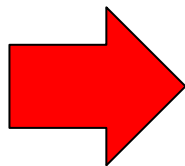


パッと火がつく 薪の組み方

1. 薪を割る



節のない薪を **2本**



①「きゅうり」くらいの太さ (中)

6本



②「わりばし」くらいの太さ (細)

8本

あなたの使い方は裏面を見てね

※節 (ふし) とは



写真のようなところ (でこぼこして、枝の折れたようなあと)

2. かまどに薪を組む



割っていない薪を三角に組み、真ん中にかるく丸めた新聞紙を入れる。



三角の薪の上に、わりばしの太さの薪を重ならないようにのせる。



さらに、きゅうりの太さの薪をまんべんなくのせる。



鍋の準備ができたことを確認してから火をつける。

ポイント

- ◎新聞紙→わりばし (細) の薪→きゅうり (中) の薪に火がついたら、割っていない (太) 薪をのせて、火が消えないように育てる。
- ◎鍋の中を焦がさないように、薪を入れながら、火の大きさを調整する。
- ◎鍋の下に火がくるように、火の場所を調整する。



乾わいた「松ぼっくり」や「杉の葉」は自然の着火剤!!
松ぼっくりや杉の葉は脂分を多く含むため、よく燃えます。
自然の素材を使った火起こしも野外炊事ならではの。